

# 自立生活センター・小平 通信

生活を豊かに彩る「ゆにーく ゆあ らいふ！」

SSKP

ゆにーく *your* らいふ！



2007年

12

月号

[表紙写真] 食事会・両国にて  
(2007年7月開催)

新企画・第3弾！

## ■自立生活インタビュー

～施設や親元から自立した方の家にお邪魔して、様々なお話を聞かせてもらいました～

村田房代さん

新連載3本スタート！

■ぶっちゃんの子育て奮闘記

■田無タワー

　オカンとボクと、時々、オトン

■ピア・カウンセリングと私

【報告】  
空白県向け集中 ILP  
ピア・カウンセリング集中講座

## 目次

自立生活センター・小平 通信 SSKP

2007年  
12 月号

# ゆにー <your ゆにー>

p 3 自立生活インタビュー

今号のゲスト 村田房代さん

### 連載

p 6 ぶっちゃんの子育て奮闘記

p 9 田無タワー オカンとボクと、時々、オトン

p 10 ピア・カウンセリングと私

### 報告

p 11 空白県向け集中 ILP

p 12 ピア・カウンセリング集中講座

p 13 活動報告

p 21 編集後記・地図

p 22 サービスのご案内

## ■自立生活インタビュー



[写真]村田房代さん

今号のゲスト **村田房代さん**  
聞き手 久保田さおり

久保田：今日はよろしくお願いします。

まずはプロフィールを教えてください。

村田：村田房代です。

久保田：好きな食べ物はなんですか？

村田：パスタ、カレー、野菜炒めです。

久保田：嫌いな食べ物は？

村田：シナモン、トマトジュース（トマトは好きです）

久保田：好きな芸能人は？

村田：山下達郎、カーペンターズ。

久保田：自立してどれくらいですか？

村田：3年半くらい。

久保田：いつ自立されたのですか？

村田：平成15年12月です。

久保田：それまではどこで生活していたのですか？

村田：家族と。

久保田：ずっと家族と？

村田：9歳から16歳まで小平の施設にいました。小平養護から訪問学級に来てくれていました。16歳までしかいられないでその後府中養護に高校卒業まで通いました。

久保田：府中養護へは自宅から通ったのですか？

村田：はい。

久保田：卒業後はどこかに？

村田：通所施設に4年くらい行きました。

久保田：そこではどんなことをしましたか？

村田：陶芸とか外出。

久保田：楽しかったことはなんですか？

村田：アルバイトで学生が来ていてその人達と話すのが楽しかったです。

友達の紹介で三鷹のセンターに行っていたこともあります。

その後一人暮らしをしたいといって、ある自立生活センター（以下CIL：の長期自立生活プログラム（以下ILP）を受けました。ピア・カウンセリングも受けました。そこで受講していた山㟢さんと知り合いました。

久保田：それでCIL小平に？

村田：はい。小平の長期ILPを受けました。

久保田：山㟢さんの紹介で？

村田：いえ。竹島さんの紹介で。

久保田：竹島さんとはどこで知り合ったのですか？

村田：小平の短期ピアカンで。

久保田：なるほど。

長期ILPは受けてどうでしたか？

村田：いろいろ難しそうだなと思いました。

久保田：自立したいという気持ちは変わらなかった？

村田：はい。

久保田：その後自立まではどのように？

村田：長期ILPを受けて1年後くらいに川元さんと会って、「なにやりたい？」って聞かれて自立したいと話して自立することになりました。

久保田：個別ILPが始まったのはいつからですか？

村田：4月から。

久保田：自立するまで大変だったことはなんですか？

村田：家探し。

久保田：緊張しましたか？

村田：はい。

久保田：不動産屋は何軒くらい回ったのですか？

村田：8軒くらい。

久保田：物件は何件くらい見たのですか？

村田：5、6件。

久保田：見つかるまでどれくらいかかりましたか？

村田：2ヶ月くらい。

久保田：結構かかりましたね。

ほかに大変だったことはありますか？

村田：介護を頼んだとき。自立する2年前に。三鷹の一般事業所からの派遣を受けていたとき、私のことをなかなか理解してもらえなかった。

久保田：やりたいこととか？

村田：はい。

介助者がなにかのきっかけで爆発したり。

久保田：それは怒ったということですか？

村田：そう。

久保田：大変ですね。

では12月に自立して今も自立生活を続けているわけですが自立してよかったですなんですか？

村田：最初は気づかなかつたけど徐々に自分から言わないと物事が動かないとわかってきたこと。指示をしないと始まらない。

久保田：指示は最初は大変でしたか？

村田：はい。

食事会（※）でみんな指示がちゃんとできていてすごいなあと思います。

久保田：なるほど。

生活していて楽しいことはなんですか？好きなことでも。

村田：ラジオをよく聴くんだけどカーペンターズが流れたとき。それから外出していくファッションを見たりすること。

久保田：では生活で大変なことはなんですか？

村田：介助者が私のことを理解してくれるまでに時間がかかる。言葉や技術などで。

久保田：これからやってみたいことはありますか？

村田：講演会やシンポジウムに行きたいです。

久保田：ありがとうございました。

※食事会：自立生活をしている障害者が月に一回集まって食事をしながら交流する会。

# ■ぶっちゃんの子育て奮闘記⑥

片山由理子

今更ですが、片山（大渕）由理子です。仕事上では、旧姓のまま大渕でやっています。知っている方もいるかと思いますが、2年前に今の主人と出会い電撃的に結婚しました。今では1歳3ヶ月の息子と戦苦闘しながら、賑やかに3人で暮らしています。なぜ、私がこの子育て奮闘記シリーズを書こうと思ったかというと、代表から言われたのもありますが…（笑）障害を持っているから、昔は異性に相手にされないだろうと勝手に思い込み、恋愛に関する夢や憧れを捨てていました。しかし、私みたいな手足が動かない重度の障害者でも結婚をし、出産をし、子育てをしていることを少しでも皆さんに伝えられたらと思い、シリーズ化しました。今の生活になるまでの経緯をお話したいと思います。

## ～Happy Birthday ゆりこ～

私は埼玉県川越市で三人兄弟の長女として生まれました。父はトラックの運転手、母はいわゆる専業主婦です。私が障害者になった理由は、生まれるときに逆子で生まれ、仮死状態でした。3ヶ月検診で首がすわらないと言われ、遅い子もいるから様子を見ようと言われたそうです。しばらくたっても首がすわらないし、発達が悪いから一度医者に見せたところ、その医者に「うちではわからない」と言われ、病院を転々としました。結局、1歳半の時に東京女子医大で検査入院をして脳性麻痺と分かりました。その後、よく脱臼等を繰り返し怒涛の入退院を繰り返していました。2歳過ぎまで補装具を着けて過ごしていました。

その頃、女子医大までの交通の便が悪く通院するのが大変だったので、家の近くの病院を紹介されて、今でいう障害児の幼稚園に通って、遊びを入れながらのリハビリをしていました。その時の記憶はあまりありませんが、唯一覚えているのは、リハビリで痛かったことです。立位の練習をするための壁があって、ベルトで伸びない筋を伸ばして固定をして、20分くらい貼り付けの刑みたいな感じでやっていました。あまりに私が大泣きするので、お母さんが見るに見かねて、本を読んだり、おもちゃで遊んだりしてくれていました。昔は、障害を持っていると云うだけで白い目で見られたり、家族が周囲から隠そうとしたりする事が多かったのですが、うちのお母さんは基本的に障害者であるとか健常者であるとかを区別なく私を外に連れ出してくれていました。

## ～ School Life ～

小学校に上がる際に、当時はまだ障害児に義務教育の免除がありましたが、親は普通に受けさせたいからと、教育委員会へ相談しに行きました。すると、知的障害の養護学校が妥当だと言われ、小1から知的障害の養護学校の訪問学級に入学して、家に先生が週に2～3日来て、一日につき2～3時間いて、読

み書きなどを教えてもらっていました。なぜ、訪問学級だったかというと、私の手足が動かないため、他の子に叩かれたりしないように配慮してくれたのと、車椅子用のトイレ等がないなどの設備上の理由があったようです。兄弟には、「由理子は学校へ行かないでいいよなあ」と言わされました。私的には家に先生が来るのではなく、自分から学校へ通いたかったので、お兄ちゃんたちがうらやましかったです。

小3のときに先生から、訪問学級では限界があるため、勉強にもう少し力を入れたほうがいいと言われ、小4からは和光市の肢体不自由児の養護学校に転校することにしました。当時、肢体不自由児の養護学校は少なくて、家から車で1時間。スクールバスだとあっちこっちに寄り、みんなを乗せて行き道が混むなど、通学に片道2時間くらいかかりました。家を8時前に出ても学校に着くのは10時位でした。小4で、今までやっていなかった教科も含め、小2のレベルからのスタートになりました。その学校での勉強はレベルに合わせたやりかたで、無理なく算数、理科、社会などの勉強をしていました。

クラスの中でも教科クラスは、字のごとく勉強中心のクラス、遊びを交えたクラスは、勉強をやりながらあきないように遊びを加えたクラス、教科がないクラスに分かれていきました。訪問学級の時よりも通学には疲れたけれど、おもしろかったです。私を学校へ通わせるために、お母さんは30歳を過ぎて免許をとり、バス停まで送ってくれていました。学校では特に不自由は感じなかつたし、前にも書きましたが基本的に、お母さんは自由奔放主義だったので、私が障害者でも特別外に出したくないとか、かわいそうとか思ってなくて、私がどこかへ行きたいと言えば連れて行ってくれたり、日曜日に先生がボランティアで、原宿や色々な場所に遊びに連れて行ってくれたり、先生の家に泊まりして、休日を楽しく過ごしていました。今は事故などが起きた場合の保障があるために、うるさいらしいです。

中学校は中2まで同じ学校に通って、中3の時に日高養護学校へ学区の関係で転校しました。通学時間にそう差はなかったのだけれど、やむを得ず転校する事になりました。学校によって進め方が違って、今までの教科クラスからワンランク落とされて、教科と遊びのクラスになったけれど、そのクラスの中でも分かれていきました。-昔やった所のドリルを渡されて「えっ～？ここやったのになあ」と思っていました。

高校1年の時にお母さんが病気で亡くなり、私の面倒はすべてお父さんが見てくれました。お父さんは、私を学校へ送りながら仕事に行き、養護学校の下校時間は15時くらいと早く途中で仕事を抜けて迎えに来てくれ、私をおいてまた仕事に戻るという生活でした。家から会社までは近かったけれど、会社に無理を言って近場だけの仕事にしてもらっていました。お母さんがいた時は、お父さんは毎日晚酌していたけれど、酔っ払ったら抱えられないし、ご飯も作らなくてはいけないので、「飲んでいる場合じゃない」と言って、晩酌をしなくなりました。同じクラスのお母さんたちが「大変だらうから家に来れば？」と言ってくれたので、お父さんを休ませる日を作るため、たまに行っていました。

お父さんが社協に学校の迎えだけでもいいからヘルパーを頼めないかと言ったが、9時から17時までしかやってないし、駅から近くないとヘルパーが派遣できないと言われました。今思えば、変な理由でムカツク話ですが、その頃お父さんは、そういうものなんだなってあきらめていたようです。最後の方は、お父さんは腰痛で私を抱えられなくなっていました。「そういう生活してればそうだよねえ。」と感じていました。働きながら私の面倒を見て、家事もやって、夜も寝返りをやるようだし、たまにお父さんが夜に起きてくれず、私が文句を言うと「俺だって眠いわい」という会話が飛び交っていました。

そんな中、施設に行く話が出て、その頃の私は施設がどういう所がわからなかつたので、一生家に帰れないと思っていました。なので、私的には、家にいたい気持ちがものすごくあったので、施設なんていやだったけれど、お父さんの疲れている姿を見ていたら、とてもこのままの生活はおくれないなあと思い、限界かなと感じました。

### ～ School Life in 施設 ～

そして、施設に入ることになり、施設と学校が隣接している所を福祉課のケースワーカーに探してもらいました。当時、埼玉ではそういう施設がなく、東京のとある肢体不自由児の施設を何箇所か紹介してもらい見学にいったところ、最初の学校では普通高校と同じレベルの授業をしていて、小学校レベルだった私にとってはちんぷんかんぷんでついていけのかなと思っていたら、幸か不幸かここには空きがなく入れませんでした。次に見学に行った学校も、やはり、授業のレベルが高くついていけかどうか不安でしたが、そこに隣接している整育園に空きがあったので、ここに入ることになりました。

そこで生活環境は、今まで家で過ごしていたときとは違い、職員と入所者は1対1ではなく5、6人対1で、頼んだことをすぐやってもらえないし、お菓子を食べたりテレビを好きな時間に見る事もできず、外に行くことも出来ませんでした。週末帰省があったので、見たいテレビは弟にビデオを一週間分撮っておいてもらい、まとめて見るのが唯一の楽しみでした。授業に関しては、小学校から高校にワープした感じで追いつこうと必死で勉強をしました。今では考えられませんが……(笑) 分からないところは兄に教えてもらいましたが、冗談で「こんなのもわからないのぉ？」とバカにされ、冗談とは分かっていましたが傷つきました。当時、養護学校側は「障害者はそんなに学を身につけなくてもいい」という考えが多かったので「そんなの教わっていないし、分からないよ！」と喧嘩しながらにも、悔しい思いをしました。手が使えないため、授業の内容も友達にノートを写してもらっていました。予習復習も職員の手を借りなくては出来なかったので、限られた時間でやるしかなく、なかなか思うように勉強が出来ませんでしたが、分からないなりにも、なんとかついていくことが出来ました。

次号 ～ 成人扱い？？ ～ に続く

## ■田無タワー

# オカンとボクと、時々、オトン①

落合勇平

「おかんがおいらの服を買ってきた・・・」

「まっ、いいっか・・・」

という感じのことを生まれてから、自立生活を始めるほんの三年ほど前までしていた。どういうことかと言うと、普段着る服を自分で選ばずに母親まかせにしていたのです。ん~今思うと、ちよいっと恥ずかしいなあと思っておりますが・・・。自分で買うといつても年に2、3枚程度であとは母親まかせ。全ての服ではありませんが、持っている服のほとんどといっても良いくらい母チョイスでした。

なんとなくは自分の着る服くらい自分で選ばなくてはと思いつつ、いつまでも親まかせのまま。母親が服を買ってくる度に口では「買ってくんなって言ってんじゃん」と反抗してみるが、楽だし自分で買ってくるつもりはあまりなし。服に関しては、本当に無頓着でした。

自立生活を始めて二年くらいから、自分で買うようになった。ちょっとずつだけど買物を楽しむようになってきた。一番最初に買った物は、ハンティング帽だったと思う。帽子を被ろうなんて一度も考えたことがなかったけど、被つてみると「案外いいじゃん！！」と自画自賛。どこに行くにも、いつも被っていた記憶が・・・、よっぽど嬉しかったんだなあ。ブランドものにあまり興味がなかったので、まずはユニ〇口通いから。ここ一年くらいは某ブランドが好きになり、ブランド中毒、買物中毒の方々の気持ちが少しはわかるようになってきたかもしれません・・・。

お目当ての商品を店に行って買ってくるという感じで買物が趣味と言える人など信じられなかつたが、買物はストレス解消になるのが納得でした。最近は母もさすがに服を買ってることはなくなつた。「もう本当に買って来なくていいから」・・・母と子がまた一步自立した。反抗的に言ってしまったボク・・・、「・・・っそう」と呟くオカン。子供が親から自立していくことは頼もしくもあり、寂しくもある。

(オカン、ありがとう) って照れくさくて、まだいえない・・・。

次号は、またこの続きから。



# ■ピア・カウンセリングと私①

久保田さおり

今回からピア・カウンセリングについて書かせていただくことになりました。みなさんはピア・カウンセリングをご存知ですか？ピアとは同じ背景をもつ仲間という意味です。ピア・カウンセリングには住居、仕事、所得保障、介助など、その人にとって必要な生活の情報提供と、精神的サポートがあります。

ここでは精神的サポートについて書きたいと思います。私たちが行うピア・カウンセリングでは、障害者同士で時間を対等に分け合って話を聞き合います。これをセッションといいます。一般的にカウンセリングというと専門家が話を聞いてアドバイスするということだと思いますが、ピア・カウンセリングではアドバイスをしません。それは、問題を解決する力は本人が持っていると信じるからです。セッションのなかでは、クライアント（話す側）は自分の時間を使つていいのです。泣いてもいいし、叫んでもいいし、なにも話さなくてもいいのです。カウンセラー役は話を聞いて、そのときどう思ったか、本当はどうしたかったのか、という問い合わせをしたりします。それは悲しかった気持ちや怒りたかった気持ちを表に出すためです。ではなぜそれが私たち障害者に必要なのでしょうか。

ピア・カウンセリングの目的の一つに自己信頼の回復があります。これは自信を取り戻すという意味です。なぜ、自信を取り戻さなければならぬのでしょうか。障害者は生きてくるなかで、さまざまな差別にあります。「障害者はありがとう、すみませんといって生きていきなさい。」「障害があるんだから仕事なんてできるわけがない、結婚なんてできるわけがない。」と、親や施設の職員に言われたり、社会に出ればなにをしようとしても支障があるのです。

私が自分が社会のなかで障害者であると感じ始めたのは障害を持ってから何年か経つてからでした。それまでは体が動かなくなつて、歩けなくなつたとだけ思っていました。施設で生活する中で、障害を持っていることによって健常者であれば社会の中で自然と行うことが自分にはできないんだとわかつてきました。外出しようとすれば段差があつて店には入れなません。学校に通いたいと思っても受け入れてもらえません。働きたいと思っても重度な障害者を雇う企業はほとんどありません。自分より先に施設から出て行く（行かなければならぬ）人はみんな在宅生活になるのですが、家に帰つても介助の手がなく、別の施設も入所待ちで、どこにも行けるところがないという人もいました。そのことを知つたとき、障害があるということは社会の中でどこからも必要とされないどころか、そこにいることさえ認めてもらえないんだと感じました。そんな気持ちを持ちながら悶々としていたとき、あるピア・カウンセラーのことを知りました。その人は障害があることが悪いのではない、あなたはありのままでいいんだと言つていました。そのときとても救われる思いがして気持ちが楽になったのを覚えてています。

続きはまた次回ということで。

# ■空白県向け集中 ILP 報告

竹島圭子

前半1月22日・23日・24日・25日後半2月27日・28日・3月1日にわたり空白県向け集中ILPを行いました。空白県向け集中ILPとは、まだ長期自立生活プログラムを開催していない、自立生活センター協議会加盟の比較的若い団体のリーダーに自立生活プログラムを体験してもらい、終了後それぞれの地域で、重度障害者の自立支援ができるようにする、又は自立支援をしていくうえで重要な、自立生活プログラム（基本編）を開催できるように支援していくのが目的の講座です。

## —プログラム内容—

### 前期 ・オリエンテーション

- ・目標設定 自己紹介
- ・障害について 自立生活運動の歴史、CILの定義、自立生活の定義
- ・介助者を使った生活、雇用主として、介助者との関係
- ・健康管理 掃除、洗濯
- ・調理実習 食事、栄養管理

### 後期 ・金銭管理 一ヶ月の生活費

- ・制度学習 年金、生活保護、介助料、その他自立生活に利用できる制度
- ・家族との関係 自分と家族との関係、自立への説得
- ・自立生活者お宅訪問 住宅改造、福祉機器への利用、自立生活までの経緯
- ・フィールドトリップ、オリエンテーション

### 個別プログラム

- ・介助者との関係
- ・生活保護の受け方
- ・アパートの借り方
- ・宿泊体験プログラムの立て方

### 「リーダーとは？」

- ・どんな人がリーダーにふさわしいか？
- ・ILP講座の企画の立て方

今回は北海道から九州まで5名の方が参加されました。2回目の参加の方も2名いらっしゃいました。それぞれの地域で今年度中に講座を開くこと、また自立希望者を開拓することと、目標を持って参加しているので、和気あいあいの中にも真剣な熱意を感じました。自立生活プログラムは自分が初めて受講した時の初心の気持ちを忘れずに受講生に伝えることを基本とすること、ILP講座が自立を目指す人の第1歩であることなどを伝えました。また、交流会で各地域の状況を知ることが出来、勉強になりました。

これからも、自立生活プログラムが全国で開催されていくことを望みます。お疲れ様でした。

## ■ピア・カウンセリング集中講座報告

久保田さおり

去る10月26日から28日にかけ2泊3日でピア・カウンセリング集中講座を開催しました。参加者は6名で、リーダー3名で行いました。今回はゲスト講師として自立生活センター・日野から秋山浩子さんが来てくださいました。多摩身体障害者スポーツセンターと国立市民総合体育館で行いました。

一日目はピア・カウンセリングってなあに?という話と人間の本質について話し、セッションを行いました。参加者はセッションが初めてなので戸惑っている方もいました。

二日目は感情の解放、障害についてセッションし、サポートグループに分かれてセッションを行いました。参加者は初日に比べセッションに慣れてきて、少し気持ちが出せるようになってきました。夜には交流会も行いました。楽しんでいただけたようでよかったです。

三日目は自立生活プログラムについて話をしました。また三日間を通しての感想を話してもらいました。

参加者はスポーツセンターに宿泊したのですが、夜は何名かの方と話をしました。また、昼食の際にも食事をとりながら話ができました。参加者がどういう生活を送っているのか、どういうことに困っているのかなど、いろいろ話せてよかったです。

今回は身体障害に加え視覚障害や精神障害の方が参加され、主催側の私たちにとって始めてのことが多く、勉強させていただくことができました。今回の経験を生かして次回の集中講座を行っていきたいと思います。



[写真]ピア・カウンセリング集中講座の模様

# 《活動報告》

2007年4月

- 2日（月）ステップアップ研修（川元・馬場・新井・二村）  
個別ILP（竹島）  
個別ILP（小泉）
- 3日（火）重度訪問介護従業者研修（川元・新井）  
バーベキュー会議（小泉・久保田・中山）
- 4日（水）ステップアップ研修（川元・馬場・栗田・新井）  
コーディネーター会議
- 5日（木）ピア・カンILP会議  
個別相談（川元）  
全国自立生活センター協議会セミナー打ち合わせ（川元）
- 6日（金）職員会議  
報告検討会議  
交渉：東京都（川元・久保田・落合）
- 9日（月）個別相談（川元）
- 10日（火）個別相談（川元）
- 10日（火）～12日（木）空白県ILP補習講座（小泉・竹島・久保田）
- 11日（水）コーディネーター会議
- 12日（木）総務会議  
ピア・カンILP会議
- 13日（金）報告検討会議  
個別ILP（竹島）
- 17日（火）ピア・カウンセリング勉強会
- 18日（水）コーディネーター会議
- 19日（木）ピア・カンILP会議  
総務会議
- 20日（金）報告検討会議
- 23日（月）～25日（水）ピア・カウンセリング研修／全国自立生活センター協議会主催（落合）
- 24日（火）ピア・カンILP会議  
中野区交渉会議（川元・小泉・竹島・佐藤）
- 25日（水）総務会議  
コーディネーター会議  
バーベキュー会議（小泉・山崎・落合・加藤・高田・三澤・二村）
- 26日（木）交渉：杉並区（小泉・竹島・佐藤・中山）
- 27日（金）報告検討会議

## 2007年5月

- 1日（火）ピア・カン I L P会議  
A L S I L P会議  
利用者宅訪問（竹島）
- 2日（水）ピア・カウンセリング研修  
コーディネーター会議  
バーベキュー会議
- 7日（月）個別相談（川元）  
全国自立生活センター協議会常任委員会議（川元）  
板橋区交渉会議（小泉・落合・小野田）  
利用者宅訪問（竹島）
- 8日（火）長期 I L P打ち合わせ（小泉・久保田）  
ピア・カン I L P会議  
全国自立生活センター協議会自立支援分科会会議（川元）
- 9日（水）バーベキュー会議  
コーディネーター会議
- 10日（木）第13期長期自立生活プログラム①  
東京都自立生活センター協議会常任委員会議（川元）
- 11日（金）職員会議  
報告検討会議  
個別相談（小泉）  
利用者宅訪問（竹島）
- 12日（土）親睦バーベキュー会
- 14日（月）個別相談（小泉）  
個別 I L P（竹島）
- 15日（火）ピア・カン I L P会議  
全国障害者介護保障協議会電話会議（川元・久保田）
- 16日（水）個別相談（川元）  
コーディネーター会議  
利用者宅訪問（竹島）
- 17日（木）第13期長期自立生活プログラム②
- 18日（金）報告検討会議  
利用者宅訪問（竹島）
- 18日（金）～21日（月）全国自立生活センター協議会所長セミナー・総会
- 22日（火）ピア・カン I L P会議
- 23日（水）ピア・カウンセリング研修  
報告検討会議
- 24日（木）第13期長期自立生活プログラム③
- 25日（金）報告検討会議
- 26日（土）ともにネット総会（竹島）

- 28日(月) 杉並区障害者施設見学(竹島・中山・佐藤・中山め)  
重度訪問介護従業者養成研修(川元・新井)
- 29日(火) ALS長期自立生活プログラム①  
ピア・カンセル・会議  
利用者宅訪問(竹島)
- 30日(水) コーディネーター会議  
ピア・カン研修  
請求事務会議(川元・佐藤・吉川)
- 31日(木) 第13期長期自立生活プログラム④  
個別相談(川元)  
厚生労働省利用者訪問

## 2007年6月

- 2日(土) はたらき場総会(川元)
- 3日(日) 自立生活センター北総会(川元)
- 4日(月) 個別相談(川元)
- 5日(火) ALS長期自立生活プログラム②  
ピア・カンセル・会議
- 5日(火) ~6日(水) 長期ILP雇用主講師/CILほっとらいふ(久保田)
- 6日(水) コーディネーター会議
- 7日(木) 第13期長期自立生活プログラム⑤  
総務会議
- 8日(金) 職員会議  
報告検討会議  
杉並区障害者施設見学(竹島・中山・佐藤・中山め)
- 11日(月) 重度訪問介護従業者養成研修(川元)
- 12日(火) 個別相談(川元)  
ALS長期自立生活プログラム③
- 13日(水) 個別相談(川元)  
ピア・カン研修  
コーディネーター会議
- 14日(木) 第13期長期自立生活プログラム⑥  
総務会議  
ピア・カンセル・会議
- 15日(金) 報告検討会議  
ほっとループ基金総会
- 18日(月) 板橋区交渉会議(小泉・落合・佐藤・小野田)  
重度訪問介護従業者養成研修(川元・馬場・岡村)  
杉並区交渉会議(小泉・竹島・佐藤・中山)

- 19日(火) A L S長期自立生活プログラム④  
小平市障害者参加型サービス交渉会議
- 20日(水) 三鷹市交渉会議(小泉)  
コーディネーター会議  
重度訪問介護従業者養成研修(三澤)  
個別ILP(山崎)
- 21日(木) 第13期長期自立生活プログラム⑦
- 22日(金) 報告検討会議  
交渉: 小平市(川元・小泉・久保田・馬場・佐藤・新井)
- 25日(月) 重度訪問介護従業者養成研修(川元・岡村・新井・田中)  
利用者宅訪問(竹島)
- 26日(火) A L S長期自立生活プログラム⑤
- 27日(水) コーディネーター会議  
利用者宅訪問(竹島)
- 28日(木) ステップアップ研修(川元・馬場・岡村)  
個別ILP(竹島)  
第13期長期自立生活プログラム⑧
- 29日(金) 長寿・子育て・障害者基金事業会議  
報告検討会議

## 2007年7月

- 2日(月) 重度訪問介護従業者養成研修(川元・馬場)
- 3日(火) A L S長期自立生活プログラム⑥  
ピア・カウンセリング研修
- 4日(水) ステップアップ研修(川元・栗田・新井)  
コーディネーター会議
- 5日(木) 第13期長期自立生活プログラム⑨  
総務会議  
ピア・カンILP会議
- 6日(金) 職員会議  
報告検討会議
- 10日(火) A L S長期自立生活プログラム⑦  
長期ILP・雇用主 講師/CILほっとらいふ(久保田)
- 11日(水) 個別相談(川元)  
コーディネーター会議
- 12日(木) 第13期長期自立生活プログラム⑩
- 13日(金) 報告検討会議
- 17日(火) A L S長期自立生活プログラム⑧
- 18日(水) コーディネーター会議
- 19日(木) 第13期長期自立生活プログラム⑪

ピア・カンパニーリング会議

- 20日(金) 長寿・子育て・障害者基金事業会議  
報告検討会議
- 24日(火) ALS長期自立生活プログラム⑨  
清瀬療護園訪問(竹島・岡村)
- 25日(水) コーディネーター会議  
長寿・子育て・障害者基金事業会議
- 26日(木) 小平市障害者福祉計画策定検討委員会会議(川元)  
ピア・カンパニーリング会議  
ピア・カウンセリング研修  
小平市交渉会議(川元・佐藤・宮下・高田)  
総務会議
- 27日(金) 長寿・子育て・障害者基金事業会議  
報告検討会議
- 31日(火) 個別相談(川元)

**2007年8月**

- 1日(水) コーディネーター会議
- 2日(木) ピア・カンパニーリング会議  
総務会議  
西武通り祭会議
- 3日(金) 職員会議  
報告検討会議
- 6日(月) 重度訪問介護従業者養成研修(竹島・馬場)
- 7日(火) ピア・カウンセリング研修  
ほっとループ通信会議
- 8日(水) 総務会議  
コーディネーター研修  
長寿・子育て・障害者基金事業会議
- 9日(木) ピア・カンパニーリング会議
- 10日(金) 報告検討会議
- 14日(火) 地域福祉振興財団監査
- 15日(水) コーディネーター会議
- 16日(木) ピア・カンパニーリング会議
- 17日(金) 報告検討会議
- 20日(月) 重度訪問介護従業者養成研修(竹島・新井・田中)  
東京都自立生活センター協議会常任委員会(川元)
- 21日(火) 利用者会議  
個別ILP(小泉)  
利用者宅訪問(竹島)

22日(水) 小平市障害者連絡会 小平市障害者計画について(川元)

コーディネーター会議

板橋区交渉会議

23日(木) 小平市福祉計画検討部会(川元)

ピア・カンILP会議

総務会議

24日(金) 交渉:小平市(川元・馬場・佐藤)

報告検討会議

移送研修(岡村・栗田・宮下・田中)

28日(火) ピア・カンILP会議

29日(水) コーディネーター会議

30日(木) 西武通り祭準備(マドレーヌ作り)

31日(金) 報告検討会議

## 2007年9月

1日(土)～2日(日) 西武通り祭り

3日(月) 個別相談(川元)

4日(火) ピア・カンILP会議

利用者交流会会議

5日(水) コーディネーター会議

7日(金) 報告検討会議

11日(火) 交渉:中野区(川元・竹島・岡村・佐藤)

11日(火)～13日(木) 空白県ILP／全国自薦登録ヘルパー全国自薦登録ヘルパー推進協会(小泉・竹島・山崎・久保田・落合)

12日(水) コーディネーター会議

13日(木) ピア・カンILP会議

総務会議

14日(金) 職員会議

報告検討会議

17日(月) 利用者交流会準備

18日(火) 利用者交流会

全国障害者介護保障協議会電話会議(川元)

利用者宅訪問(竹島)

19日(水) コーディネーター会議

20日(木) ピア・カンILP会議

21日(金) 報告検討会議

全国自薦登録ヘルパー全国自薦登録ヘルパー推進協会研修打ち合わせ(川元・竹島・久保田・岡村・佐藤)

24日(月) 個別相談(川元)

25日(火) 全国自薦登録ヘルパー全国自薦登録ヘルパー推進協会研修打ち合

わせ(川元・竹島・久保田・岡村・佐藤)

- 26日(水)～28日(金) 全国自薦登録ヘルパー全国自薦登録ヘルパー推進  
協会交渉研修(川元・竹島・久保田・岡村・佐藤)
- 26日(水) 小平市福祉計画検討策定検討委員会会議(川元)  
コーディネーター会議
- 27日(木) ピア・カンセル・ピア会議
- 28日(金) 長寿・子育て・障害者事業会議  
報告検討会議

## 2007年10月

- 1日(月) 個別相談(川元)  
武藏野市役所(川元 三澤)
- 3日(水) 小平市福祉計画策定検討委員会会議(川元)  
コーディネーター会議
- 4日(木) ピア・カンセル・ピア会議  
利用者交流会議
- 5日(金) 職員会議  
報告検討会議
- 9日(火) 個別相談(川元)  
重度訪問介護従業者養成研修(竹島・馬場)
- 10日(水) 個別相談(川元)  
コーディネーター会議
- 11日(木) 交渉:西武鉄道本社(川元・竹島・山崎・久保田・落合・大渕・吉田)  
ピア・カウンセリング公開講座打ち合わせ
- 12日(金) 報告検討会議
- 13日(土) ピア・カウンセリング公開講座
- 15日(月) 訪問介護従業者3級養成研修(大渕)
- 16日(火) 重度訪問介護従業者養成研修(竹島・馬場・岡村)  
訪問介護従業者3級養成研修(落合)
- 17日(水) コーディネーター会議
- 19日(金) 中野区交渉打ち合わせ(竹島・岡村・佐藤)  
交渉:中野区(川元・竹島・岡村・佐藤・岸本)  
報告検討会議
- 22日(月) 小平市障害者福祉センター講演打ち合わせ(竹島・落合)
- 23日(火)～25日(木) 全国自薦登録ヘルパー全国自薦登録ヘルパー推進  
協会研修(川元・竹島・久保田)
- 25日(木) ピア・カンセル・ピア会議
- 26日(金) 報告検討会議
- 29日(月)～1日(木) 全国自薦登録ヘルパー全国自薦登録ヘルパー推進協

31日(水) 個別相談(竹島)  
コーディネーター会議

2007年11月

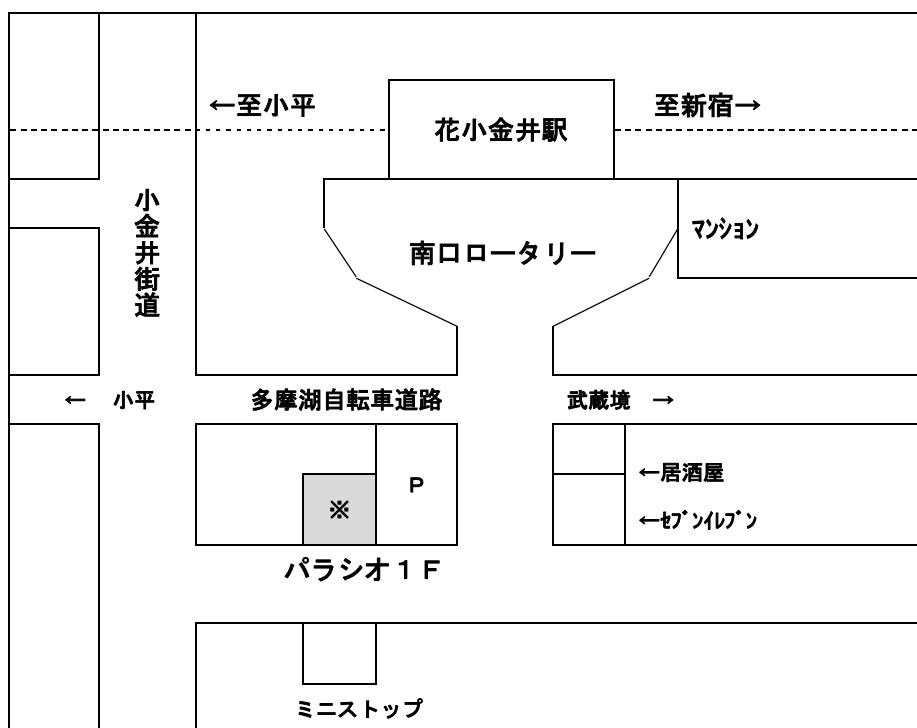
- 2日(金) 役員会議  
報告検討会議  
個別相談(川元)
- 5日(月) 利用者交流会準備
- 6日(火) 利用者交流会
- 7日(水) 個別相談(川元)  
コーディネーター会議
- 8日(木) ピア・カン I L P会議
- 9日(金) 職員会議  
報告検討会議
- 12日(月) 板橋区交渉会議(落合・佐藤)  
小平市障害者福祉センター講演(落合・竹島)
- 13日(火) ピア・カン I L P会議  
杉並区交渉会議(竹島・佐藤・中山)
- 14日(水) コーディネーター会議
- 15日(木) ~17日(土) ピア・カウンセリング集中講座
- 16日(金) 報告検討会議
- 19日(月) 個別相談(竹島)  
杉並区交渉会議(竹島・佐藤・中山)
- 20日(火) 交渉: 杉並区(竹島・佐藤・中山)
- 21日(水) 役員会議  
長寿・子育て・障害者事業会議  
コーディネーター会議  
個別相談(山㟢)
- 22日(木) ピア・カン I L P会議  
訪問介護従業者2級養成研修(竹島・久保田・新井)
- 27日(火) ピア・カン I L P会議
- 28日(水) ~30日(金) 全国自薦登録ヘルパー推進協会交渉研修(川元・  
竹島・久保田・岡村・佐藤)
- 28日(水) コーディネーター会議
- 29日(木) 忘年会会議
- 30日(金) 西武バス会社来訪  
報告検討会議

■◆□◇ ■◆□◇ ■◆□◇ 編集後記 ■◆□◇ ■◆□◇ ■◆□◇

早いもので2007年も、もうすぐ終わりですね。皆さんは年越しはどんなものを食べますか？私の実家ではぶりと数の子と煮物と日本酒と決まっています。そして2年参りに行きます。31日の0時近くに神社にお参りに行くと、2年分お参りしたことになります。お得です。みなさんもいかがでしょう？来年、みなさんが健康に過ごせますよう願っています。

(編集長代理 久保田)

■自立生活センター・小平 地図



## 24時間・365日介助派遣サービス

近隣の8市にまたがって身体障害者、知的障害者、精神障害者にサービスを提供しています。(初めてサービスを利用する場合は、利用規約等について事前に説明する場を設けさせていただきます。)

- ・自費利用 ①知的・ガイドヘルプ ￥1,450／時
- ②家事援助 ￥1,450／時
- ③日常生活支援 ￥1,500／時
- ④身体介護 ￥1,800／時
- ・ILP、ピア・カウンセリング利用 ご相談ください。
- ・自立支援法によるヘルパー利用 ご相談ください。

## 障害者生活支援事業サービス

- ◇介助制度、手当、住宅改造、生活保護などの制度利用の申請のサポートならびに生活に関わるあらゆる相談をお受けします。
  - ・電話相談：365日、9時～22時
  - ・面接相談：月～金、10時～17時
- ◇ピア・カウンセリング（集中講座、個別）
- ◇自立生活プログラム（生活力、社会性を高めるプログラム）  
長期プログラム、短期プログラム、個別プログラム、単発プログラム  
プログラムテーマ例…障害って何？・介護を頼もう（介護者との関係）・  
制度学習・フィールドトリップ・お金の管理・調理実習 …など
- ◇宿泊体験－民間のアパート（自立生活体験室）に泊まって、自立生活を体験するプログラムです。
- ◇自立生活をめざすための住宅サービス（アパート等の住居の確保）
- ◇広報誌の発行（制度や自立生活のノウハウに関する情報提供、情報交換）

各サービスを利用される方には、協力会費を頂いております。

入会ご希望の方は、下記までお問い合わせください。

会費：年額4,200円(年度途中から入会の場合月額350円)

《編集》自立生活センター・小平  
〒187-0003 東京都小平市花小金井南町  
1-26-30 パラシオ102  
TEL/042-467-7235 FAX/042-467-7335  
E-MAIL : cilkodaira3@hotmail.com

《発行所》  
障害者団体定期刊行物協会  
東京都世田谷区砧6-26-21  
(定価 100円)